

平成 25 年度 鶴見総合高等学校 不祥事ゼロプログラム 検証結果

平成 25 年の不祥事ゼロプログラム実施状況に基づいて、次のとおり検証を行った。

(1) 目標及び行動計画について

①公務外非行の防止

教職員の綱紀の保持、特に性犯罪について校内研修会を実施し、非行防止のために職員の意識啓発を図った。

②成績処理

総合教育センターより講師を招き、成績処理におけるミス・不祥事の実態、その防止方法について研修会を行い、事故事例について研究した結果、成績処理についてのミスを防ぐことができた。

③調査書の発行

調査書発行マニュアルに基づき、複数の職員で慎重に点検・確認を行った。その結果、ミスなく調査書を発行することができた。

④体罰、不適切指導

体罰防止研修会を開き、体罰はいかなる理由があろうとも許されないという意識の徹底を図った。

⑤セクハラ、わいせつ行為の防止

神奈川県教育委員会のセクハラ防止資料・セルフチェックシート等を使用し、常に自らの言動が、他者からセクハラと受け取られないよう注意するように意識啓発を図った。

⑥不適正経理処理の防止

経理処理の研修会を開き、徴収・執行のルールの確認を行い、適正な処理の徹底を図った。

⑦個人情報保護・情報管理

情報管理研修会を開催し、各個人のヒヤリハット事例を持ち寄り、グループごとに防止方法を検討し、全体会で発表、共有することによって、意識の徹底を図った。

毎月月末を「個人情報点検の日」とし、情報の整理を呼びかけた。

⑧不祥事等の周知・防止啓発

不祥事に関する新聞記事等を職員室に掲示し、不祥事防止に向けて、常に職員の意識を啓発した。また毎朝の打合せ資料に、職員より集めた不祥事防止標語を掲載し、全職員の参加する不祥事防止を推進した。

(2) 平成 26 年度に向けて

引き続き、毎朝の打合せ資料に事故防止会議よりの標語と注意を喚起すべき事項を載せ、職員の意識啓発を図り、事故の未然防止に努める。

成績処理、調査書の発行については、作業マニュアルに基づき複数確認の徹底を図る。常に緊張感を持ち、絶対にミスを出さないという決意を持って臨む。

体罰、セクハラ、わいせつ行為について、相互チェックのできるような風通しの良い職場環境をめざす。

経理処理において、適正な処理のより一層の徹底を図る。